

科目名	国際協力実践演習 II	担当教員	東智美・大嶋英一
科目属性	専門科目群F	単位数	2単位(面接0.5単位)
<p><b>【授業概要】</b></p> <p>青年海外協力隊として現地で活躍中の隊員が、自己の活動内容をもとに行う演習である。演習 II では、在外活動二年目の隊員が引き続き現場での活動をもとに、これまでの活動でどのような成果が上がったか、問題点への対処は適切であったかなどについて報告し、それをもとに演習を行う。具体的には、まず教科書を通して、国際協力のプロジェクト評価の基本知識や手法を学ぶ。その上で、活動を通じて明らかとなった個々の途上国の置かれた状況と開発ニーズから、協力隊の活動がどのような効果を上げたか評価し、JICAの隊員報告書と連動させながら、活動の課題や成果を明らかにする。活動評価の結果をレポートにまとめた上でスクーリングに臨み、受講者が各々の活動評価を発表し、どのような開発支援が必要かつ適切かなどについて議論する。活動評価やそれについての議論を受けて、評価を活動にフィードバックするとともに、今後の配属先への支援の必要性や帰国後の自身の活動について、プロジェクト形成を試みる。最後に、それまでの活動を踏まえて国際協力と共生、国と国との共生について自己の考えを提示することを目指す。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際協力のプロジェクト評価の基本的な考え方と手法を身につける。</li> <li>2. プロジェクト評価を通じて、活動の課題や改善点を把握する。</li> <li>3. 国際協力を通じた「共生」のあり方について、自分自身の見解を示せるようになる。</li> </ol> <p><b>【授業計画】</b></p> <p>活動を実施しながら、取り組む課題についての分析を行い、活動の目的を明確化し、課題を抽出する。まず、教科書に沿って、プロジェクト評価の基礎知識と具体的な方法を学ぶ（第1～7回）。学んだプロジェクト評価の手法を取り入れながら、自身の活動評価計画を立案し、活動の中で評価を行い、結果をレポートにまとめる（第8～11回）。レポートの内容に基づき、スクーリングにおいてプレゼンテーションを行い、受講生・教員で議論を行う（第12～13回）。活動評価とディスカッションを受けて、フォローアップ活動に取り組み、今後を想定したプロジェクト形成を試みる（第14～15回）。スクーリングの終了後、科目修得試験（レポート形式）に臨む。</p> <p>第1回 開発援助の評価の現状（第1章）  第2回 プロジェクトと評価の基礎知識（第2章第1～2節）  第3回 評価実施の手順（第2章第3節）  第4回 情報収集の方法（1）：概説（第3章第1節）  第5回 情報収集の方法（2）：具体的な情報収集の方法（第3章第2節）  第6回 情報収集の方法（3）：データの整理・集計（第3章第3節）  第7回 プロジェクト評価の事例（第4章）  第8回 評価計画の立案（1）：活動評価の5W1H  第9回 評価計画の立案（2）：活動評価のデザイン  第10回 活動評価の実施</p>			

- 第 11 回 評価報告レポート作成
- 第 12 回 評価報告レポートに基づくプレゼンテーション
- 第 13 回 ディスカッション：課題・改善策に関する議論
- 第 14 回 活動評価のフォローアップ
- 第 15 回 プロジェクト形成

**【評価方法】**

評価は、スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、「科目修得試験」（50%）の割合で行います。

**【教科書】**

- NPO 法人アークス編『国際協力プロジェクト評価』（国際開発ジャーナル社、2003 年）

**【参考図書】**

- 佐原隆幸・徳永達己『国際協力アクティブ・ラーニングワークでつかむグローバルキャリア』（弘文堂、2016 年）
- 中田豊一『ボランティア未来論：私が気づけば社会が変わる』（コモンズ、2000 年）